

I C O M日本委員会
2 0 1 8 年度理事会及び総会 議事次第

日 時 2 0 1 8 年 5 月 2 3 日 (水) 1 4 時～1 6 時

場 所 国立新美術館 3 階講堂

- 議 題
1. 2 0 1 7 年度事業報告及び決算について
 2. 2 0 1 8 年度事業計画及び予算について
 3. 新入会員の承認について
 4. I C O M京都大会 2 0 1 9 の準備状況について
 5. その他
 - ・ I C O M京都大会 2 0 1 9 における日本委員会の活動について
 - ・ 団体会員代表者の登録について

- 配付資料
1. 2 0 1 7 年度事業報告及び収支決算 (案)
 2. 2 0 1 7 年度 I C O M国際委員会年次大会参加実績
 3. 2 0 1 8 年度事業計画及び収支予算 (案)
 4. 新入会員について (非公開)
 5. I C O M京都大会リーフレット
 6. ニュースレター (日本語版)
 7. 2 0 1 8 年度各 I C O M国際委員会等開催一覧
 8. 衆・文部科学委員会会議録 (抄)
 9. I C O M京都大会参加登録料概要
 10. I C O M入会申込書
 11. M D P P ミュージアムの未来に向けてのラウンドテーブル
 12. I C O M団体会員代表者について
 13. 会員名簿 (2 0 1 8 年 5 月 1 8 日現在) (非公開)

以上

2017年度事業報告及び収支決算について

1. 2017年度事業報告

(1) 会議

ア. 理事会及び総会の開催

5月26日 国立新美術館

(2) 主催・共催事業

ア. 「国際博物館の日」記念事業の実施

全国の222館で300を超える事業を実施。

イ. 国際シンポジウム「ICOM京都大会に向けて」の開催（5月21日、京都国立博物館）

アクソイ会長はじめ ICOM本部役員を迎える、地元市民を中心に約200名が参加。

ウ. 2015ユネスコ勧告を読み解く（9月17日・福岡市内ホテル、18日・京都国立博物館）

2015年の博物館に関する勧告を担当したユネスコの林菜央氏を講師に迎え、約50名が参加。

エ. ワークショップ：ロンドンオリンピック文化プログラムと博物館（9月22日・京都国立博物館）

イングランド芸術協議会のヘドリー・スウェイン氏を講師に迎え、23名が参加。

オ. ICOMミュージアムカフェ（11月17日・東京国立博物館）

アクソイ会長を迎える、ICOMならびに京都大会について知り、ネットワークを広げることを目的とし、若手・中堅学芸員を中心に43名が参加。

(3) 諸活動

ア. 国際委員会年次大会参加・発表（資料2参照）

イ. AAM（米国博物館協会）年次大会参加・発表（セントルイス・米国）

5月7日～10日 リンネ・マリサ（京都国立博物館）

ウ. ICOM-Egypt年次大会参加・発表（カイロ・エジプト）

5月14日～16日 栗原祐司理事

- エ. ICOM 年次大会参加・発表（パリ・フランス）
6月7日～9日 青木保委員長はじめ、代表団、オブザーバー計14名
- オ. IFLA（国際図書館連盟）年次大会参加（ヴロツワフ・ポーランド）
8月19日～25日 栗原祐司理事
- カ. ブルーシールド年次総会参加（ウィーン・オーストリア）
9月12日～16日 益田兼房（ICOM京都大会準備室）
- キ. Best in Heritage 第16回大会参加・発表（ドブロブニク・クロアチア）
9月28日～30日 佐藤禎一氏（大分県芸術文化スポーツ振興財団）ほか
2名
- ク. ICOM ASPAC（アジア太平洋地域連盟）年次大会参加（チャバハール・イラン）
11月1日～3日 栗原祐司理事ほか2名
- ケ. ICOM-ITC（ICOM研修センター）秋期コース参加（北京・中国）
11月6日～14日 西記代子（ICOM京都大会準備室）
- コ. 世界科学館サミット開会式スピーチ（日本科学未来館・東京）
11月15日 スアイ・アクソイ会長
- サ. ICOMOS（国際記念物遺跡会議）年次大会参加（ニューデリー・インド）
12月11日～15日 益田兼房（ICOM京都大会準備室）
- シ. ブルーシールド・オーストラリア会議参加（キャンベラ・オーストラリア）
1月29日～31日 益田兼房（ICOM京都大会準備室）

（4）ICOM京都大会関係

- ア. 第3回組織委員会（10月6日 京都国立博物館）
- イ. 第1回運営委員会（4月18日 京都国立博物館）
- ウ. ICOM本部役員来日・視察・打ち合わせ（5月18日～22日 京都）
- エ. PCOに[株]コングレを指名（5月22日）
- オ. 運営委員会ワークショップ（5月20日 京都国立博物館）
- カ. 国際委員会窓口担当者勉強会（8月26日・27日 東京国立博物館、
8月28日・31日 京都国立博物館）

キ. 公式ホームページ開設（9月14日）

ク. ICOM本部との打ち合わせ（10月18日 パリ）

ケ. ICOM本部執行役員会（12月7日～8日 パリ）

コ. 第2回運営委員会・国際委員会報告会（3月10日 京都国立博物館）

サ. ICOM京都大会IC担当者×開催地ミュージアム交流会（3月11日 京都国立博物館）

シ. 第2回京都推進委員会（3月13日 平安神宮）

ス. 運営委員会学術・研究チーム第1回会議（3月16日 東京国立博物館）

2. 2017年度収支決算（案）

（2017年4月1日～2018年3月31日）

<収入の部>

単位(円)

科 目	2017年度予算額	2017年度決算額	備 考
会費	6,900,000	6,252,100	団体38 個人311
雑収入	500	34	預金利息
前期繰越金	1,043,434	1,043,434	
計	7,943,934	7,295,568	

<支出の部>

単位(円)

科 目	2017年度予算額	2017年度決算額	備 考
イコム会費	5,750,000	5,093,736	
負担金	20,000	20,000	日本ユネスコ協会連盟会費
事業費 ※	800,000	287,010	
事務費	715,000	681,976	
会議費	20,000	5,400	
通信費	150,000	144,806	
消耗品費	15,000	100,000	
印刷製本費	100,000	0	
旅費	100,000	7,140	
賃金	400,000	400,000	
雑費	30,000	24,630	
予備費	200,000	0	
次期繰越金	458,934	1,212,846	
計	7,943,934	7,295,568	

※事業費内訳

HP維持・更新：89，100円

ミラノ大会決議翻訳料：169，830円

展示用 I C O M京都大会ポスター：28，080円

<2017年度 ICOM国際委員会参加実績>

資料2

略称	期間	開催地	参加者*
1 AVICOM	2017年6月13-15日	Uherský Brod (チェコ)	渡辺友美 (お茶の水大学)
2 CAMOC	2017年10月30-31日	Meico City (メキシコ)	チョウ・チュンニ/益田兼房 (ICOM京都大会準備室)
3 CECA	2017年10月14-18日	London (英国) (DEMHIStと共に)	太田 歩 (国立歴史民俗博物館)
4 CIDOC	2017年9月25-30日	Tbilisi (ジョージア)	嘉村哲郎 (東京藝術大学)、川邊咲子 (金沢大学)、西記代子 (ICOM京都大会準備室)
5 CIMCIM	2017年2月22-25日	Basel/Bern (スイス)	嶋和彦 (浜松市楽器博物館)
6 CIMUSET	2017年12月5-8日	Rabat (モロッコ)	若林文高 (国立科学博物館)
7 CIPEG	2017年9月5-9日	Chicago (米国)	田澤恵子 (古代オリエント博物館)
8 COMCOL	2017年12月5日-9日	Umeå (スウェーデン)	堀内しきぶ (奈良国立博物館)
9 COSTUME	2017年6月26-29日	London (英国)	本橋弥生 (国立新美術館)
10 DEMHISt	2017年10月14-18日	London (英国) (CECAと共に)	チョウ・チュンニ (ICOM京都大会準備室)、中谷至宏 (元離宮二条城事務所)
11 GLASS	2017年10月15-21日	Sars-Poteries (フランス)	土田ルリ子 (サントリー美術館)
12 ICAMT	2017年10月14-18日	Cincinnati (米国) (ICMEMOと共に)	大原一興 (横浜国立大学)
13 ICDAD	2017年11月29-12月1日	Niami (米国)	リンネ・マリサ (京都国立博物館)
14 ICEE	2017年10月16-22日	Sant Juan (ペルトリコ)	(ハリケーンにより中止)
15 ICFA	2017年9月17-19日	Copenhagen (デンマーク)	青木加苗 (和歌山県立美術館)
16 ICLM	2017年9月15-20日	Creta (ギリシャ)	中川成美 (立命館大学)
17 ICMAH	2017年10月4-6日	Baku (アゼルバイジャン)	岡村勝行 (大阪文化財研究所)
18 ICME	2017年10月17-22日	Washington D.C. (米国)	飯田卓 (国立民族学博物館)
19 ICMEMO	2017年10月14-18日	Cincinnati (米国) (ICAMTと共に)	東自由里 (京都外国語大学)
20 ICMS	2017年8月20-25日	Boston (米国)	前田裕美 (浦賀ドック野外船舶技術博物館設立推進会議)
21 ICOFOM	2017年9月25-29日	Habana (キューバ)	栗原祐司 (京都国立博物館)
22 ICOM-CC	2017年9月4-8日	Copenhagen (デンマーク)	榎玲子 (たばこと塩の博物館)、園田直子 (国立民族学博物館)
23 ICOMAM	2017年9月11-13日	Koblenz (ドイツ)	不参加
24 ICOMON	2017年9月3-6日	Jakarta (インドネシア)	川仁 央
25 ICR	2017年8月27-9月1日	Helsinki (フィンランド)	五月女賢司 (吹田市博物館)
26 ICTOP	2017年10月11-13日	Windhoek (ナミビア)	江水是仁 (東海大学)
27 INTERCOM	2018年2月23-25日	Kolkata (インド)	栗原祐司 (京都国立博物館)、渡邊淳子 (ICOM京都大会準備室)
28 MPR	2017年10月1-5日	Amsterdam (オランダ)	関谷泰弘 (東京国立博物館)、林浩二 (千葉県立中央博物館)
29 NATHIST	2017年10月25-30日	Pittsbyugh (米国)	亀井修 (国立科学博物館)
30 UMAC	2017年9月5-8日	Helsinki (フィンランド)	栗原祐司 (京都国立博物館)、チョウ・チュンニ (ICOM京都大会準備室)、寺田鮎美 (東京大学)、福野明子 (国際基督教大学)、本間友 (慶應義塾大学)、南博史 (京都外国语大学)

* オブザーバーを含む。ほかに個人会員の参加あり。

年 月 日

I C O M入会申込書

(個人会員)

I C O M日本委員会
委員長 青木保 殿

氏名

会員種別 正会員 アソシエート会員

退職会員 学生会員

連絡住所 現住所 勤務先 (別紙に記載)

I C O M規約の趣旨を確認し、個人会員として入会いたしたく、ご承諾
くださいますようお願ひいたします。

以上

ふりがな

氏 名 :

現 住 所 : 〒

生年月日 : 年 月 日

電話番号 :

携帯番号 :

E メールアドレス :

所 属 先 :

職 名 :

所 在 地 : 〒

電話番号 :

現職が博物館に関係していない場合は、これまでの博物館関連の経歴 :

特に研究されている専門事項 :

所属希望国際委員会（1先のみ）:

その他興味のある国際委員会（3先まで）:

以上

<通 信 欄>

博物館をつなぐ
地域や社会をつなぐ
過去と未来をつなぐ
世代をつなぐ



ICOM

international council of museums

ICOMとは…(ICOM日本会員の声)

- ▶国や立場を超えて、博物館に関わる人たちが対等に語り合える場。
- ▶博物館の課題を世界的に共有し、その解決に向けて活動する場。
- ▶ミュージアムの夢を与えてくれる存在。

ICOMの組織



ICOMの国際的ミッション



あなたもICOM会員に！

ICOMに入会できるのは…

- 博物館などの職員
 - 博物館の研究・研修機関の職員
 - 大学の博物館学等の教員、学生など
- ※施設単位でもご入会いただけます。

ICOM会員の特典

- 雑誌「ICOM News」での情報入手
- 会員サイトICOMMUNITYへのアクセス
- ICOM加盟館での優待入館
- 国際委員会への所属、参加・交流
- ICOM主催の研修等の参加など

お申し込み・お問合せは **ICOM日本委員会事務局**
(TEL:03-5832-9108 Email:icom@j-muse.or.jp)まで

ICOM
international council of museums
Japan

HPやFacebookで、ICOM京都大会の情報を発信していきます。
過去のイベントの記録や関連情報もチェックしてみてください。

ICOM京都大会 HP <http://icom-kyoto-2019.org/jp>
ICOM京都大会 Facebook <https://www.facebook.com/icomkyoto2019/>

大会に関するお問合せ
ICOM京都大会準備室
〒605-0931 京都市東山区茶屋町527 (京都国立博物館内)
TEL: 075-561-2127 FAX: 075-561-2131
Email: office@icomkyoto2019.kyoto

国際博物館会議 京都大会
ICOM
KYOTO 2019

文化をつなぐミュージアム

－伝統を未来へ－

MUSEUMS AS CULTURAL HUBS:
THE FUTURE of TRADITION

国際博物館会議 京都大会

ICOM
KYOTO 2019

1-7 September

3年に一度のICOM大会が、
2019年に日本で初めて開催されます。
世界141の国と地域から、3,000人を超える
ミュージアムの専門家が京都に集まります。
文化のつなぎ役としての「ミュージアム」の可能性を、
世界各国の博物館関係者と一緒に考えてみませんか？

アイコム
ICOM (International Council of Museums: 国際博物館会議)とは…

世界の博物館の進歩発展をめざす国際的NGOです。
141の国と地域の約37,000人の博物館関係者が会員です。

主催: ICOM、ICOM日本委員会、ICOM京都大会2019組織委員会、
公益財団法人日本博物館協会、日本学術会議（予定）



国際博物館会議 京都大会

**ICOM
KYOTO 2019**

ICOM京都大会2019 に参加しよう！

どこかの国の学芸員が、あなたの博物館と同じ課題に取り組んでいるかもしれません。自分たちの活動を紹介し合い海外の研究者と交流することで、これまでには気づかなかった新しい見かたや、発見があるかもしれません。

博物館をつなぐ、地域や社会をつなぐ、世界をつなぐ、世代をつなぐ、過去と未来をつなぐ…

文化のつなぎ役としての「ミュージアム」の可能性を、世界各国の博物館関係者と一緒に考えてみませんか？

大会テーマ

文化をつなぐミュージアム —伝統を未来へ—

MUSEUMS AS CULTURAL HUBS:
THE FUTURE of TRADITION

博物館が伝統的な文化を活かしながら

豊かな未来を創造する文化的な拠点として新たな機能を創出し、

社会的な役割を果たすために何ができるのか、何をするべきなのかを考えます。

1 国際的課題と博物館

災害や紛争、グローバル化、高齢化など、

近年の世界規模の課題に、博物館はどのように貢献できるか？

2 地域コミュニティと博物館

都市や地域社会のなかで、博物館がどのような役割を果たすことができるのか？

どのような可能性が秘められているか？

3 博物館の定義と制度

これからの博物館や学芸員はどうあるべきか？

その理念や特性を実現できる博物館・学芸員の制度とは？

- いつ?
- どこで?
- 誰が?
- 参加申込は?
- 参加費は?

2019年9月1日(日)–9月7日(土)の7日間
国立京都国際会館(メイン会場)、京都府・市内の博物館や文化施設、大学など
会員でなくても誰でも参加できます
2018年11月頃にICOM京都大会HP上で参加募集を開始します。
2018年秋頃に決定予定。大会HPでお知らせします。
ICOM会員・非会員・学生、申込時期によって料金が異なります。
※前回のミラノ大会では、会期フル参加で約4万5千円(早割:ICOM会員)でした。
京都大会では、日本の皆さまが参加しやすい1日券や学生割引も設ける予定です。
発表募集は? 2018年秋頃から、各委員会のHP上で募集します。
大会HPでも情報を公開します。
ボランティアは? 学生ボランティアと京都市周辺在住の市民ボランティアを予定しています。
2018年秋頃から大会HPで募集します。
詳しくはWebで <http://icom-kyoto-2019.org/jp>



大会日程

9/1 (日)	諮問協議会会議	国内委員長・国際委員長会議	
2 (月)	開会式	基調講演	各国際委員会のセッション
		ミュージアムフェア(展示会)	オープニング・パーティ (国立京都国際会館)
3 (火)	基調講演・パネルディスカッション	各国際委員会のセッション	ソーシャル・イベント
		ミュージアムフェア(展示会)	(京都市内各地)
4 (水)	基調講演・パネルディスカッション	各国際委員会のセッション	ソーシャル・イベント
		ミュージアムフェア(展示会)	(京都市内各地)
5 (木)	各国際委員会等のオフサイト・ミーティング		ソーシャル・イベント
	(京都、関西周辺の博物館、文化施設、大学など)		(京都市内各地)
6 (金)		エクスカーション	
		(京都府・京都市内、関西一円、遠方)	
7 (土)	全体総会	諮問協議会会議	閉会式・パーティ
			(京都国立博物館)

大会内容

A 基調講演・パネルディスカッション

世界の文化人、国際的著名人のプレゼンテーションを間近で聴講できます。(日本語同時通訳付き)



B 各国際委員会のセッション・オフサイトミーティング

ICOMには、30の様々な分野の国際委員会(International Committee 通称 IC)があり、会期中、同時並行でセッションやオフサイトミーティングを開催しています。アナタの気になる委員会がきっと見つかるはず! 聴講するだけでなく、発表もできます。



C ミュージアムフェア(展示会)

3日間にわたり、メイン会場イベントホールで開催。博物館・文化に関わる多彩な企業・団体が出展します。



D エクスカーション

京都府・市内を中心に、関西一円、そして遠方のツアーまで国内外のミュージアム専門家が“参加してみたい!”と思うような一捻りきかせたICOM専用コースをご用意します。



E ソーシャルイベント

夜は、市内の文化エリアが会場となり、さまざまな交流イベントが開催されます。夜間開館する博物館も、京都全体が、まるごとミュージアムになります。





大阪歴史博物館にて、記念シンポジウムを開催しました。第1部では、海外から専門家を招き、ICOM執行役員・ザンビア:ニヤンベ氏、ICOMポルトガル委員長:リベイロ氏、シンガポール・ナショナル・ヘリテージ・ボード:タン氏が、基調講演を行い、各国におけるミュージアム情勢等について詳細な報告を行いました。

第2部では、「新次元の博物館のつながり」をテーマに、日本のミュージアム関係者4名と基調講演者3名によるパネル・ディスカッションを実施。会場からの質疑もあり、SNS等のメディアの活用事例やその運用形態等について、具体例も交えながら意見交換・課題の共有が行われました。

これからの主なイベント、会議等

2018年（平成30年）

6月 6日～8日	ICOM総会、諮問会議（パリ） ICOM本部との打ち合わせ
9月 30日	ICOM舞鶴ミーティング2018
10月 1日	国立京都国際会館ほか会場視察
11月 28日～30日	第60回全国博物館大会（東京）
11月 30日～12月 3日	ICOM ASPAC（九州国立博物館）

【予告】9/30 | ICOM舞鶴ミーティング

ICOM京都大会の開催を1年後に控えた9月30日（日）、舞鶴にてプレ・ミーティングを開催します。京都大会のテーマ「文化をつなぐミュージアム－伝統を未来へ－」に関わる研究や事例発表を国内外から募集し、京都大会における議論の先駆けとします。



【研究発表募集中！ 締め切り2018年6月30日】

次の2つのカテゴリーで発表者を募集しています。
発表時間は1人あたり10～15分、英語または日本語での発表です。

- カテゴリー① 「国際的課題とミュージアム」
- カテゴリー② 「地域コミュニティとミュージアム」

詳しくは、京都大会ウェブサイトをご覧ください。

ICOM Kyoto 2019 NEWS Letter

Japanese Edition Vol.1

ICOM京都大会ニュースレター（日本語版）

（発行日：2018.05.23）

お知らせ

パンフレットができました！



京都大会の概要や日程、大会テーマを載せたパンフレットを作成しています。京都大会に興味をお持ちの方やご参加を考えている方、ICOMへの入会を検討中の方など、幅広い方にお手に取っていただければと思います。ご入用の方は ICOM京都大会準備室まで、ご希望の宛先・部数をお知らせください。

協賛・寄附のご案内

ICOM京都大会は、博物館の専門家だけでなく、「博物館」を支え、「文化」に貢献されている、あらゆる業種・分野の企業・団体の皆さまのご協力があつてはじめて実現します。この意義深い国際大会を成功に導いていただくとともに、歴史的な大会に皆さまのお名前を刻んでいただきますようお願い申し上げます。協賛・寄附に関して詳しくは、京都大会のウェブサイトをご覧ください。

ICOM会員になりませんか？

ICOM会員になると、雑誌『ICOM NEWS』等での情報が入手できるほか、会員証によるICOM加盟館への優待入館、国際委員会への参加等の特典が受けられます。会員種別は、個人会員（正会員、学生会員）、団体会員、賛助会員等があります。お申し込み・お問合せは、ICOM日本委員会事務局（TEL: 03-5832-9108 Email: icom@j-muse.or.jp）まで。



京都大会ウェブサイトはこちら！

<http://icom-kyoto-2019.org/jp/>

作成・発行：ICOM京都大会準備室

〒605-0931 京都市東山区茶屋町 527 京都国立博物館

TEL: 075-561-2127 FAX: 075-561-2131

E-mail: office@icomkyoto2019.kyoto



News Letter

May. 2018



大会テーマ

文化をつなぐミュージアム －伝統を未来へ－

Museums as Cultural Hubs: The Future of Tradition

京都大会の目的：

博物館が伝統的な文化を活かしながら豊かな未来を創造する文化的な拠点として新たな機能を創出し、社会的な役割を果たすために何ができるか、何をするべきなのかを考えます。

①国際的課題と博物館

災害や紛争、グローバル化、高齢化など、近年の世界規模の課題に、博物館はどのように貢献できるか？

②地域コミュニティと博物館

都市や地域社会のなかで、博物館がどのような役割を果たすことができるのか？どのような可能性が秘められているか？

③博物館の定義と制度

これからの博物館や学芸員はどうあるべきか？その理念や特性を実現できる博物館・学芸員の制度とは？



基調講演



各國際委員会のセッション、オフサイト・ミーティング



ソーシャルイベント



エクスカーション

大会日程

9/1
<日>

諮詢会議

国内委員長・国際委員長会議

2
<月>

開会式

基調講演

各國際委員会のセッション

オープニング・パーティ

(国立京都国際会館)

3
<火>

基調講演・パネルディスカッション

各國際委員会のセッション

ソーシャル・イベント

(二条城)

4
<水>

基調講演・パネルディスカッション

各國際委員会のセッション

ソーシャル・イベント

(北山エリア)

5
<木>

各國際委員会等のオフサイト・ミーティング

(京都、関西周辺の博物館、文化施設、大学など)

ソーシャル・イベント

(岡崎エリア)

6
<金>

エクスカーション

(京都府・京都市内、関西一円、遠方)

7
<土>

全体総会

諮詢会議

閉会式・パーティ

(京都国立博物館)

ICOM京都大会事務局では、大会成功に向けた各種会議の開催、また大会への機運を高めるための各種講演会や、ワークショップ等を開催しています。本ニュースレターでは、2017年度の取り組みの一部をご紹介します。

1. Meetings

京都大会に向けた主な会議

主要な動き

2017年（平成29年）

- 4月1日 ICOM京都大会準備室設立
4月18日 第1回 ICOM京都大会運営委員会
5月17日～22日 ICOM幹部来日
5月21日 國際博物館の日 記念シンポジウム
PCO審査、決定
ICOM総会、諮問委員会（パリ）
ICOM本部との打ち合わせ
国際委員会窓口担当者勉強会
第3回 ICOM京都大会組織委員会
ボランティアチーム第1回会議
12月8日 ICOM執行役員会、本部との打合せ

2018年（平成30年）

- 3月10日 第2回 ICOM京都大会運営委員会
国際委員会年次大会報告会
開催地ミュージアムへの説明会
開催地ミュージアム×国際委員会窓口担当者交流会
3月16日 第1回学術・研究チーム会議
4月12日、13日 ICOM本部事務局会場視察、打合せ
5月19日 國際博物館の日 記念シンポジウム

6/7-9 | 第32回 ICOM総会、第83回 ICOM諮問会議（パリ・ユネスコ本部）



日本からは、佐々木組織委員長、青木保 ICOM日本委員長をはじめ14名が参加。諮問会議では、佐々木組織委員長が京都大会の準備進捗状況についてプレゼンテーションを行いました（写真左）。

3/10 | 第2回 ICOM京都大会運営委員会



各国際委員会の連絡担当者が、担当する委員会の年次大会への参加報告を行いました。続く運営委員会では、栗原運営委員長から平成29年度の主な事業報告と京都大会の準備状況等の説明があったほか、来年度事業（国際博物館の日記念シンポジウム、舞鶴ミーティング2018など）についても情報共有がなされました。

▲運営委員会の様子（京都国立博物館にて）

4/1 | 準備室設立

京都国立博物館内に、京都大会準備室を設立しました。



4/18 | 第1回 ICOM京都大会運営委員会

京都国立博物館にて開催。京都大会の運営に欠かせない有識者や各国際委員会の担当者で構成された委員が出席し、委員会の組織体制や今後の予定について確認しました。



▲京都国立博物館にて、開会の挨拶を行う佐々木委員長

5/17-22 | ICOM幹部来日

ICOMスアイ・アクソイ会長、アルベルト・ガランディーニ副会長、インキン・チャン執行役員とピーター・ケラー事務局長のICOM幹部が来日し、京都市内各所を視察。また、21日にはPCO（運営オーガナイザー）の審査を行い、（株）コングレを選出しました。

ボランティアチーム、学術・研究チームが活動を始動！

京都大会運営委員会の中には、有識者を中心にボランティア、学術・研究、広報などのチームが設置されています。2017年10月30日には「ボランティアチーム」が、また2018年3月16日には、「学術・研究チーム」がそれぞれ第1回目の会合を開催。京都大会の成功に向けて、今後も継続的に活動していきます。



▲学術・研究チームの会合の様子（東京国立博物館にて）

2. Events

これまでに開催したイベント

5/21 | 國際博物館の日（IMD）記念シンポジウム、ワークショップ



京都国立博物館にて開催。シンポジウムの第1部では、ICOMアクソイ会長、チャン執行役員、ケラー事務局長、ガランディーニ副会長による基調講演の後、特別講演として、毛利衛 日本科学未来館長が「世界科学館サミット2017について」と題して講演を行いました。第2部では、2017年の国際博物館の日のテーマ「歴史と向き合う博物館—博物館が語るものは」について、第1部の登壇者と吉田憲司 国立民族学博物館長、久留島浩 国立歴史民俗博物館長、東自由里 京都外国语大学教授がパネルディスカッションを行いました。また前日の5月20日には、ICOM京都大会運営委員会メンバーを対象としたワークショップを開催。ディスカッションを通じて、ICOM幹部と参加者が活発な意見交換を行いました。

9/18 | 「ユネスコ勧告を読み解く」ワークショップ



ミュージアムとコレクションの保存活用などについての具体的な言及があるユネスコ勧告（2015年に採択）についての理解を深めるため、ユネスコ文化セクター・ミュージアムプログラム主任で、同勧告の起草段階から関わってきた林菜央氏を招聘し、ワークショップを開催しました。

11/17 | ICOMミュージアム・カフェ

世界科学館サミット（2017年11月15日～17日、日本科学未来館にて）の開催に合わせて、アクソイ会長が来日した機会をとらえ、関東圏のミュージアム関係者との交流会を開催し、43名の参加がありました。ICOM京都大会の内容とその意義について共有するだけでなく、館種を超えて参加者が交流を深める貴重な機会となりました。

▲アクソイ会長とディスカッションする参加者▶



▲テーブルごとに分かれて、ICOM大会の関連プログラム案について話し合った。スウェイン氏（写真左）も議論に加わった。

2018 3/11 | 開催地ミュージアムへの京都大会説明会、開催地ミュージアム×国際委員会窓口担当者交流会

午前中は、京都大会準備室による説明会を開催。京都府内・市内のミュージアム関係者30人超が参加し、ICOM京都大会の概要や京都大会での地元開催地ミュージアムの関わり方について、準備室スタッフが説明しました。午後に開催した交流会では、京都地域のミュージアム関係者と国際委員会の窓口担当者が集まり、和気あいあいとした雰囲気の中、ワークショップ形式で交流を深めました。



▲館種を超えたつながりが生まれる場となった▶

ICOM国際委員会等 Annual Conference 2018

	略称	時期	場所	テーマ
1	AVICOM	2018年5月29日－6月1日	メヒヤーニヒ（ドイツ）	Inheriting cultural heritage by new media
2	CAMOC	2018年6月2日－5日	フランクフルト（ドイツ）	Definition of city museums
3	CECA	2018年9月23日－27日	トビリシ（ジョージア）	Cultural Action: Meanings
4	CIDOC	2018年9月29日－10月5日	イラクリオン（ギリシャ）	Provenance of Knowledge
5	CIMCIM	2018年9月10日－16日	武漢/上海（中国）	Displaying tradition in music museums
6	CIMUSET	2018年10月15日-19日	オタワ（カナダ）	Digital museums もしくは Museums, Youth and STEAM
7	CIPEG	2018年9月4日-7日	スウォンジー（イギリス）	Breaking Barriers
8	COMCOL	2018年9月26日-28日	ヴィニペグ（カナダ）	Contemporary Collections: Contested and Powerful もしくは Contemporary Collectiong and Human Rights
9	COSTUME	2018年6月10日-15日	ユトレヒト（オランダ）	Fashion and Innovation
10	DEMHIIST	2018年10月10日-12日	パクー（アゼルバイジャン）	未定
11	GLASS	2018年9月24日-29日	サンクトペテルブルグ（ロシア）	Glass museums and collections in Russia
12	ICAMT	2018年9月6日-8日	エスボー/ヘルシンキ（フィンランド）	Museum architecture and Exhibition technique
13	ICDAD	2018年10月10日-12日	パクー（アゼルバイジャン）	未定
14	ICEE	2018年11月11-17日	マドリッド/バルセロナ（スペイン）	Museums and Heritage
15	ICFA			
16	ICLM	2018年8月3日-8日	リガ（ラトビア）	Personalities and Time in the Museum Exhibition
17	ICMAH	2018年10月10日-12日	イスタンブール（トルコ）	Museums and Collections of Companies and Institutions
18	ICME	2018年10月9日-13日	タルトゥ（エストニア）	未定
19	ICMEMO	2018年10月14-18日	テルアビブ/エルサレム（イスラエル）	Art, Memory and Identity
20	ICMS	2018年9月18日-22日	ナイロビ（ケニア）	Disaster Management
21	ICOFOM	2018年10月15日-19日	テヘラン（イラン）	Museology and the Sacred
22	ICOM-CC	no annual conference planned in 2018		
23	ICOMAM	2018年9月30日－10月3日	リュブリヤナ（スロベニア）	War and Peace, Fear and Happiness
24	ICOMON	2018年10月3日-6日	アテネ（ギリシャ）	ICOMON's role and history/ Numismatic Collections and Numismatics
25	ICR	2018/11/4日-9日	オークランド/ウェリントン（ニュージーランド）	未定
26	ICTOP			intersection of museum training and regional museums needs
27	INTERCOM	2018年2月23-25日	コルカタ（インド）	Entrepreneurial Management
28	MPR	2018年10月8-11日	シカゴ（アメリカ）	Communicating with Heart: Putting People at the Centre
29	NATHIST	2018年11月5日-8日	テルアビブ（イスラエル）	Natural History museums in time and place
30	UMAC	2018年6月21日-24日	マイアミ（アメリカ）	Audacious Ideas: University Museums and Collections as Change-Agents for a Better World
	Best in Heritage	2018年9月24日-27日	ドブロブニク（クロアチア）	

衆・文部科学委員会（5/16）会議録（抄）

浮島智子議員（公明党）

最後になりますけれども、国際博物館会議（ICOM）についておうかがいをさせていただきます。

これは平成20年、今から10年前の6月3日でございましたけれども、私が参議院の時に、委員会で質問させていただきました。この博物館会議というのは、1946年に創設された世界の博物館、ミュージアムの関係者等が集う会議でございますけれど、一度も日本で開かれたことがない。これをしっかりと日本に誘致して開くべきということで、質問させていただきました。

10年かかりましたけれども、来年9月1日から7日に京都で開催が決まりました。これは世界の約140か国と約3万人（注：ママ）のミュージアムの専門家が集まる大会でございます。

そこで、このような大型の国際会議が開かれる今こそ、日本の文化に対して世界の注目が集まると私は思っております。まだ国内外でも実施されていない今回のこの取り組みのようなもの（注：和歌山県立博物館が、工業高校や盲学校等と共同で3Dプリンターを活用し、触って楽しめる文化財のレプリカや図録の作成を地域で行う取り組み）を子供たちからプレゼンテーションをしたり、また、日本の美術に関心の高い海外の博物館関係者がエクスカーションとしていろいろなところにいかれますけれども、このルーブル美術館の文化財の修復にも使用されている福井の越前和紙の工房を見学するなど、積極的に打ち出すことが必要であると思います。

国として、この博物館会議を支援していくべきだと私は思いますけれども、大臣の見解をおうかがいさせていただきたいと思います。

林芳正文部科学大臣

2019年に開催される国際博物館会議（ICOM）京都大会は、世界各国から3,000人規模の博物館関係者が一堂に会する世界大会で、我が国で初めて開催されるものでございます。京都大会では、今、先生からご紹介いただいた和歌山県のような取り組みなど、我が国の博物館の取り組みやプレゼンスを大いにアピールしたいと思っておりますし、世界各地の博物館関係者が、我が国の文化や伝統に触れるまたとない機会ともなりうるものと考えております。このため、文科省としましては、主催者であるICOM本部や大会組織委員会等と緊密に連携・協力をしながら、大会の成功に向けて取り組んでまいりたいと思っております。

浮島智子議員（公明党）

ぜひ、この大会が大成功するように力を貸していただきたいと思います。本日はありがとうございました。

ICOM京都大会参加登録料概要 (4月 本部との打合せ時点)

* 早期申込み(2018年12月～2019年*月を想定)

- ・会員 43, 000円
- ・非会員 56, 000円
- ・学生/同伴者 31, 000円

* 通常申込み(2019年*月～2019年8月を想定)

- ・会員 56, 000円
- ・非会員 68, 000円
- ・学生/同伴者 37, 000円

* 開催中申込み(2019年9月)

- ・会員 68, 000円
- ・非会員 81, 000円
- ・学生/同伴者 43, 000円

* 1日パス(9月2日～9月4日の間で最大2日まで)

- ・会員／非会員 共通 10, 000円
(期間中: 12, 000円)

年 月 日

I C O M入会申込書

(個人会員)

I C O M日本委員会
委員長 青木保 殿

氏名

会員種別 正会員 アソシエート会員

退職会員 学生会員

連絡住所 現住所 勤務先 (別紙に記載)

I C O M規約の趣旨を確認し、個人会員として入会いたしたく、ご承諾
くださいますようお願ひいたします。

以上

ふりがな

氏 名 :

現 住 所 : 〒

生年月日 : 年 月 日

電話番号 :

携帯番号 :

E メールアドレス :

所 属 先 :

職 名 :

所 在 地 : 〒

電話番号 :

現職が博物館に関係していない場合は、これまでの博物館関連の経歴 :

特に研究されている専門事項 :

所属希望国際委員会（1先のみ）:

その他興味のある国際委員会（3先まで）:

以上

<通 信 欄>



**Committee of
Museum Definition, Prospects and Potentials**

「博物館の定義、見通しと可能性(MDPP)」に関する常設委員会

**ROUND TABLES ON THE FUTURE OF MUSEUMS
ミュージアムの未来に向けてのラウンドテーブル**

**Methodology
実施方法
(参加者向け抜粋訳)**

**The Round Table Questions
ラウンドテーブルにおける質問内容**

As part of a discussion around the definition of museums in the 21st century, ICOM is running a series of round tables around the world to explore the future of museums and how museums and societies intertwine and impact each other. We recommend watching the recent interview with Jette Sandahl, chair of the ICOM Museum Definition, Prospects and Potentials Committee, available at the following link:

<https://www.youtube.com/watch?v=e6eROC9Lk0A&t=327s>

21世紀の博物館の定義に関する議論の一環として、ICOMは世界中でラウンドテーブルを開催し、将来の博物館について、また博物館と社会が、どのように相互に影響を及ぼしているのかを検討中です。ラウンドテーブルを実施する前に、参考資料としてMDPP委員長のJette Sandahlのインタビューを見ることを推奨します。

<https://www.youtube.com/watch?v=e6eROC9Lk0A&t=327s>

All these round-tables address the same four basic questions:

ラウンドテーブルを開催する際、すべてのテーブルで、下記の4つの質問を問い合わせ、回答のデータを収集します。

- What do you think are the most relevant and important contributions which museums can make to society in the coming decade?
今後10年間、博物館が社会にもたらす最適かつ重要な貢献は何だと思いますか？
- What do you think are the strongest trends and the most serious challenges faced by your country in the coming decade?
今後10年間、あなたの国が直面する最大の傾向（トレンド）と最も深刻な課題は何だと思いますか？

- What do you think are the strongest trends and the most serious challenges faced by museums in your country in the coming decade?
今後 10 年間、あなたの国の博物館が直面する最大の傾向（トレンド）と最も深刻な課題は何だと思いますか？
- How do you think museums need to change and adapt our principles, values and working methods over the next decade to meet these challenges and enrich our contributions?
今後 10 年間、博物館は、これらの課題を解決し、貢献を豊かにするために、如何に博物館の原則や価値観、作業方法などを変え、適応させる必要があると思いますか？

Rules of communication

ラウンドテーブル実施中のコミュニケーションに関するルール

Once groups have been divided, facilitator introduces the questions, which may be mailed to participants ahead of time.

参加者が各グループに分かれて着席した後、ファシリテーターは 4 つの質問を提示します。

Facilitators can provide participants a minute or two to think about the question, jot down ideas or otherwise collect their thoughts, prior to recording responses. **It is important that participants understand that they should respond based on their own personal experience and feeling, and not in the name of their institution.**

ファシリテーターは、回答を録音する前に、参加者に質問を考えたり、アイデアを書き留めたりするため、1—2 分間の時間を設けることがあります。参加者には、所属の立場としてではなく、自分の個人的な経験や感情に基づいて答える必要があります。

At each table, all participants will, in turn, address each of the four questions cited above. Prior to answering, respondent should state name, country (this can be the country of origin or residence, or both) and the number of the question being answered. When everyone in the group has responded to a question, the group will move on to the next question and address it in the same way.

各テーブルでは、すべての参加者が上記の 4 つの質問にそれぞれに回答をします。回答する前に、参加者は、国や地域（これは現在の居住地、出身地、またはその両方）と回答する質問の番号を言います。テーブルの参加者全員が質問に回答したら、次の質問に進み、同様に上記の情報を述べてから回答します。

Each participant will have a maximum of two minutes to give her/his approach to each of the four questions, without interruptions or comments from the group. Each recorded statement, for each of the question rounds, should be introduced by the speaker's name, country, and question # ONLY, no CV's.

各参加者は、4 つの質問それぞれに、自分のアプローチで回答してもらうために、ファシリテーターからの回答の誘導やコメントなしで、1 人最大 2 分の回答時間を持ちます。質問ごとに録音された各記録は、参加者（回答者）の名前、国及び質問番号のみで、自己紹介は必要ありません。

Since the time is short and restricted, everyone is asked to strictly respect the two minutes limit, to allow everyone to give her/his answer. If not, the facilitator will intervene.

時間が短く制限されているため、全員が答えられるよう、2分間を厳守してください。
そうでない場合は、ファシリテーターが介入します。

The intention is to hear everyone's own, individual and unique perspective based on personal experience, as the goal is to collect as diverse responses as possible. The hope is that the group will avoid interruptions or comments of agreement and disagreement. Facilitators should point out that responses should not make references to another participant's response.

可能な限り多様な回答を収集することが目的であるため、個人の経験に基づいて、個人的かつユニークな視点を回答してください。ファシリテーターは発表者の発言に仲介したり、賛成または反対意見を述べることはしません。また、ファシリテーターは、参加者が他の参加者の回答に影響を受けたり、参照したりしないよう指摘することができます。

All answers will be recorded, in video or audio format - unless somebody specifically requests not to be recorded. The recordings will be part of the databank of material collected for the discussion of a possible revision of the ICOM definition of museums and will be made available online for future reference. Audio files available online will not be searchable by name of participant, only by country, location of event, museum profession, and key words.

特に録音を拒否されない限り、すべての回答がビデオまたはオーディオ形式で記録されます。これらの記録は、ICOM の博物館定義の改訂に向けた議論のために収集された資料のデータベースの一部であり、今後の参考としてオンラインで利用可能になる予定です。オンラインで検索できる記録は、国、場所、博物館の専門性、キーワードで検索することができますが、参加者の名前で検索させることはできません。

Thank you and conclusion

お礼と閉会

Thanks to all participants for your contribution. If time allows, the facilitator may also open for comments, discussion or summations.

ラウンドテーブルの終わりに、ファシリテーターは参加者全員に感謝を申し上げます。時間が許せば、ファシリテーターはディスカッションや回答の要約をし、コメントする時間を設けることもあります。

I C O M団体会員代表者について

ICOM 団体会員は 3 名の代表者（団体会員代表者）を登録することができるが、日本委員会の 38 の団体会員のうち 3 名を登録しているのは 10 館のみであることから、あらためて団体会員に団体会員代表者の登録状況の確認・見直しを呼びかけ、ICOM 京都大会を来年に向けて、団体会員の一層の参画を促進する。

<団体会員代表者>

団体会員代表者は、本部役員、国内委員会/国際委員会/地域連盟の委員長に立候補できないことを除き、投票権を含め、個人会員と同等の権能を有することが ICOM 規約（別紙抜粋参照）で規定されている。

<登録状況>

各館の団体会員代表者の登録状況は、ICOM 本部の会員管理システムである ICOMMUNITY で確認することができる。上述のとおり、現状 3 名を登録しているのは 10 館のみであり、国際委員会に所属する団体会員代表者はさらに限られる。また、入会時に団体会員は代表者を登録するが、その後の異動等に伴う更新が適切に行われていないものと思われる。

<今後の対応>

- 早急に次の対策を講じて、登録の更新を行い、団体会員代表者の活動の活性化を図る。
- ・各団体会員に登録状況の確認・見直しを依頼し、事務局が登録データを更新する。
 - ・会員名簿に団体会員代表者名を記載し、個人会員と同様に連絡・情報提供を行う。

以上